

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎適期収穫と正しい調製作業で良質な自給飼料を確保しよう。

乳用牛

◇ 牛群検定成績を活用した飼育管理の改善

1 乳成分

乳成分は個体の栄養状態を表しており、一般に乳脂肪率が3.0%以下に低下している場合は粗飼料が、乳タンパク質率が2.8%以下に低下している場合は濃厚飼料が不足しているため、それぞれの給与量を増やす。

また、分娩後60日以内の牛群検定成績での乳脂肪率が5.0%以上と高い場合は、体脂肪が急激に消費されていることを示しているため、脂肪肝及びケトosis等の疾病を疑い治療する。

2 体細胞数

乳質を改善するためには、個体別に体細胞数を把握する必要がある。特に、泌乳後期や高産次の牛で体細胞数が高い傾向にある場合は、過搾乳や真空圧不足などの搾乳ストレスのほか、ミルカーを介して感染が広がる黄色ブドウ球菌(通称SA)などを原因とする乳房炎を疑う必要がある。

乳房炎が分娩直後に多い場合は、乾乳期に感染した可能性が高い。特に乾乳初期の乳腺退縮時や乳房内圧が高まる分娩直前は、乳頭口が開きやすいので、ディッピングが効果的である。

また、分娩1週間前の乳房が張り始めた頃に、乳房のしこりや乳汁を確認し、乳房炎感染が疑われた場合は、直ちに乳房炎軟膏で治療を行う。この場合、初乳を子牛に飲ませることはできないが、薬剤が分娩日まで乳房内に留まるため、泌乳期の治療よりも大きな効果が見込める。

なお、分娩前に治療した場合は、生乳の出荷前に抗生物質残留検査を確実に実施する。

肉用牛

◇ 肥育牛の飼育管理

1 飼育環境

全頭が横になれるように飼育密度は1頭当たり5～6㎡を確保し、定期的に敷料を交換して呼吸器病の要因となるアンモニアの発生を防ぐ。飼槽の食べ残しは除去し、清潔に保つとともに、牛が常に清潔な水を飲めるようにする。

外気温が常時 25℃を超えると、暑熱ストレスにより生産性が低下するため、送風機などにより体温上昇を防ぐ。

2 ビタミンおよびミネラルの補給

肉質（サシ）を改善する目的で飼料中のビタミンAコントロールが行われるが、血中濃度が 20IU/dL まで低下すると、盲目や食欲低下、筋肉水腫（ズル）が多発するため、早めにビタミンA剤を投与するなどして改善する。

尿石症は、尿の pH がアルカリ性に傾くと、尿中の過剰なミネラルが結晶化して一気に症状が進行するため、飼料中のミネラル（特にカルシウムとリン）のバランスに配慮するとともに、塩化アンモニウム剤等を用量に従い投与して予防する。

3 肺炎や下痢の予防

飼育環境に留意するほか、ワクチンの適切な活用は予防効果が高いので、かかりつけの獣医師又は家畜保健衛生所に相談する。

また、放牧などで牛舎が空になる時期に、舎内の清掃・消毒を行う。特に石灰乳の塗布は効果が高い。

豚

◇人工授精による効率的な肉豚の生産

- 1 人工授精の活用により、産肉性に優れ、斉一性の高い肉豚を生産するとともに、種雄豚を介する疾病の予防や種雄豚の飼養頭数を減らすことにより、コストを低減する。
- 2 人工授精用精液は、宅配便による流通方式が確立され、種豚場からの入手が可能である。
- 3 母豚群と止め雄の形質を適合させるために、種豚場と相談して使用する精液を選択する。
- 4 精液は 5～15℃で保存すれば 7～14 日は良好な状態を保持できるが、種豚場ごとに保存の最適温度と期間が異なるので確認をする。
- 5 精液到着後は、直ちに指定された温度条件で衛生的に保存し、保存期間が長くなると精子活力が低下するので、できるだけ早めに使用する。

鶏

◇青森シャモロックの飼養管理のポイント

1 鶏の管理

- (1) 鶏の闘争を防ぐとともに、肉質の向上を図るため、飼育密度はマニュアルに沿って 1 m² 当たり 5 羽以下とする。
- (2) 尻つつきや羽つつきなどの悪癖防止のため、必要に応じてデビーク（断嘴）する。
- (3) 胸ダコの発生を防ぐため、敷料は 10 cm 以上の厚さに入れる。また、通気を良くし、敷料が湿らないように心がける。

2 衛生管理

- (1) 農場への病原体の侵入を防ぐため、各鶏舎の入口に踏み込み消毒槽を設置し、消毒を徹底する。また、鶏舎ごとに専用の長靴、帽子、衣服を着用する。
- (2) 平飼いでは鶏コクシジウム症の発生が懸念されるため、オールアウト後の鶏舎消毒の徹底はもちろん、マニュアルに沿ったコクシジウムワクチン接種を実施する。
- (3) 鶏舎への野生動物の侵入を防ぐため、窓などの開放部にはネットや金網を設置する。

草地・飼料作物

◇ トウモロコシサイレージの調製

1 収穫適期

- (1) トウモロコシの収穫は子実の登熟状況を確認し、栄養収量が最大で、かつサイレージ発酵に最適な水分 70%程度になる黄熟期に行う。ただし、細断型ロールベアラで梱包し、多段積みで貯蔵する場合は、ベールの変形を抑制するため、水分含量が 67%程度に低下する黄熟後期に収穫する。
- (2) 黄熟期の判定は、以下を目安に行う。
 - ア 絹糸が出てから早生品種で約 40 日、中生品種で約 50 日経った頃。
 - イ 雌穂を包む苞皮（外側の皮部分）が黄白色になり、子実の表面が硬化し、爪をたてても内容物が出なくなった頃。
 - ウ ミルクライン（雌穂中央部の子実の黄色部と乳白部分の境目）がほぼ中央に達した頃。

2 詰め込み方法

- (1) コーンハーベスタの刃をよく研ぎ、切断長は 1 cm 程度とする。
- (2) 刈り取りは当日中に密封できる面積とする。
- (3) 固定サイロでは、踏圧、加重を十分行い、詰め込み後は速やかに密封する。
- (4) 気密サイロや塔型サイロなどでは、詰め込み作業中の有毒ガス（二酸化窒素）の発生や酸欠に注意し、換気を怠らない。
- (5) 細断型ロールベアラ体系では、ラップフィルムを 8 層巻きとする。

◇ 稲ホールクロップサイレージの調製

1 収穫適期

- (1) 収穫時期は予乾体系では糊熟期、予乾を行わないダイレクトカット体系では黄熟期が適している。
- (2) 熟期判定の目安は以下のとおりである。

熟 期	出穂後日数	稲の状態
糊熟期	15～25 日頃	籾は黄緑色で穀粒は葉緑素が残り黄緑色。胚乳は糊状。
黄熟期	30～40 日頃	籾は黄色または褐色で穀粒は葉緑素が消失し黄色。胚乳はロウ状。穀粒は爪で容易に破砕できる。

2 収穫、調製法

- (1) 稲発酵粗飼料専用収穫機による収穫・調製では予乾が行えないので、水分が十分低下した黄熟期に行う。
- (2) 通常の牧草収穫作業機でロールバールサイレージとして調製する場合は、土砂の混入による発酵品質の低下や脱粒による収穫ロスを防ぐため、予乾・反転作業回数は1回に止める。
- (3) ラップフィルムは気密性を保持するため6層巻きとする。

3 飼料向け稲わらの収集

(1) 乾燥の促進

貯蔵中の品質劣化を防ぐため、稲わらはほ場内で十分に乾燥する。乾燥促進のため、長わらや長カットわらはテッダにより1～2回反転する。また、ノッタ等で結束した稲わらは棒がけ、ハサがけ、地干しなどにより乾燥を進める。

(2) 梱包、搬出

十分に乾燥したら、レーキにより集草し、ロールベアラで梱包する。梱包後は速やかにほ場から搬出する。

(3) 収納

ほ場から搬出した稲わらは、畜舎近くの風通しの良い納屋等に収納する。屋外に貯蔵する場合はビニールシート等で被覆して雨水の浸入を防ぐ。また、乾燥が不十分で梱包した稲わらはラップフィルムで密封する。